

## (IV) 教育研修、普及啓発、技術援助、組織育成支援

## 1 研修会・講演会

地域における精神保健の充実を図るため、保健所、関係機関の職員に対して、研修会及び講演会、連絡会議等を実施した。

## (1) 研修会

研修等名 (期日・場所)	内 容(テーマ、演題) 講 師	対象及び 参加人員
精神保健福祉 担当職員 初任者研修 R1年6月6日(木) 13:30～16:30 R1年6月7日(金) 9:30～16:10 (当センター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県の精神保健福祉の動向と課題 県地域保健課 精神保健班 班長 嘉手納 克子</li> <li>・精神障がい者の理解と対応の仕方 当センター 所長 宮川 治</li> <li>・障害者総合支援法及び障害福祉サービスについて 県障害福祉課 地域生活支援班 主査 饒波 正也</li> <li>・総合精神保健福祉センターの概要と事業紹介 当センター 相談指導班 班長 新城 明美</li> <li>・精神通院医療費公費負担制度及び精神障害者保健福祉手帳制度について 当センター 総務法定班 主査 玉城 善史</li> <li>・地域活動支援センターの概要及び利用者の声 豊見城市地域活動支援センターゆい桜 相談員 山野 宏 及び 利用者1名</li> <li>・保健所の役割について 南部保健所 精神保健班 班長 宮城 政代</li> <li>・発達障がい者の理解と支援 沖縄県発達障がい者支援センターがじゅま～る 主任 久貝 晶子</li> </ul>	<p>対象:市町村、保健所、福祉事務所において本年度より新たに精神保健福祉業務に従事する者</p> <p>参加者: 1日目:50人 2日目:61人</p>
ゲートキーパー養成 研修(思春期相談機 関職員等対象) R1年8月8日(木) 13:30～16:30 (南部保健所)	<p>テーマ:「自傷や希死念慮のアセスメントと支援」 講師:大正大学心理社会学部臨床心理学科 教授 近藤 直司</p>	<p>対象: 思春期相談機関 職員等</p> <p>参加者:123人</p>
ひきこもり支援者研 修 R1年8月9日(金) 10:00～16:30 (南部保健所)	<p>講演:「ひきこもりケースのアセスメントと支援」 講師:大正大学心理社会学部臨床心理学科 教授 近藤 直司</p>	<p>対象:ひきこもり 支援に関わる機 関の職員</p> <p>参加者: 92機関 126人</p>

研修等名 (期日・場所)	内 容(テーマ、演題) 講 師	対象及び 参加人員
心理的応急処置 (PFA)一日研修  R1年9月27日(金) 9:20～16:40 (当センター)	スーパーバイザー: 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部 災害等支援研究室 研究員 大沼 麻実  講師(Aグループ) 沖縄県立中部病院 公認心理師 吉元 なるよ 琉球病院 公認心理師 諸見 秀太 当センター所長 医師 宮川 治  (Bグループ) 平安病院 公認心理師 滝 友秀 琉球病院 公認心理師 高江洲 慶  内容:講義「PFA 概論」 演習「PFA の活動原則」 ケースシナリオとロールプレイ	対象:市町村・保健所・消防署職員  参加者:39人
精神障害者地域移行・ 地域定着支援研修  R1年10月30日(水) 13:25～16:30  (当センター)	精神障害者の地域移行、地域定着支援にかかわる精神科 病院職員並びに保健所職員等を対象とした、院内実践報 告と講演会  1部 「県内病院における地域移行の実践例」 医療法人 卯の会 新垣病院 大村知嗣・平良麻由美 沖縄県立精和病院 池原尚子・屋嘉比浩子  2部 「精神科医療とリカバリー」 講師:平安 良雄 医療法人へいあん 平安病院 法人統括医院長・臨床研修センター長 横浜私立大学名誉教授 「グループワーク・IMR 実践報告」 医療法人へいあん 平安病院 後藤一菜・德里海智子	対象:精神科医 療機関及び保健 所職員 (看護師・PSW・OT ・心理士・保健師・ 社会福祉士・事務 等)  参加者:49人・ 17病院・5機関
かかりつけ医等心の健 康対応力向上研修  R1年11月22日(金) 19:00～21:00 (沖縄県医師会館) ※後援:沖縄県医師会	第1部 座長 曙クリニック院長 玉井 修 テーマ:「沖縄県における飲酒問題と琉球病院での取組み」 講師:独立行政法人国立病院機構琉球病院 精神科医長 中井 美紀  第2部 座長 琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学 講座 教授 近藤 毅 テーマ:「アルコールとうつ、自殺～『死のトライアングル』を 防ぐために～」 講師:国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センタ ー精神保健研究所 薬物依存研究部 部長 /病院 薬物依存症センター センター長 松本 俊彦	対象:内科医等 かかりつけ医・精 神科医・コメディ カル・保健所職 員等  参加者:197人

研修等名 (期日・場所)	内 容(テーマ、演題) 講 師	対象及び 参加人員
災害派遣精神医療チ ーム(DPAT)研修会  R1年12月4日(水) 9:00～17:00 (当センター)	講師及びファシリテーター: 琉球病院、精和病院、南部医療センター・こども医療セ ンター、平安病院、地域保健課から 26 名(医師、看護 師、心理士、精神保健福祉士、事務職等) 内容:講義、机上演習、災害演習 プログラム1 講義 災害医療概論 プログラム2 講義 県内の災害医療体制 プログラム3 講義 フェイズごとの DPAT 活動について プログラム4 講義 DPAT のトピックス プログラム5 講義 ロジスティクス概論 プログラム6 講義・実習 情報管理 プログラム7 講義 災害支援システムと災害時の記録 プログラム8 講義 DPAT への出動要請について (発災時～DPAT 派遣要請まで) プログラム9 机上演習 DPAT 活動 派遣の準備 -DPAT 派遣時の CSCA- プログラム10 机上演習 DPAT 活動 病院支援 プログラム11 大規模災害演習 DPAT 活動 地域支援	対象:DPAT 登録 機関職員及び県 内精神病院の職 員、行政職員  参加者: <受講者> 15 病院・2 機関 74 人 (うち講師兼 2 人) <講師> 11 人 <ファシリテーター > 15 人 計 98 人
アルコール依存症 支援者研修会  R2 年 1 月 17 日(金) 14:00～16:30 (当センター)	1 当事者の体験発表 2 家族の体験発表 3 講義「アルコール依存症の理解と回復支援」 講師 平田 雄三 (糸満晴明病院 医師)	対象:保健所、福 祉事務所、市町 村、医療機関でア ルコール依存症 者の回復支援に 従事する者 参加者 65 人 (30 機関)
ギャンブル障害(依存 症)支援者研修会  R1 年7月 26 日(金) 10:00～16:00 (県総合福祉センター 403 研修室)	1 ギャンブル障害とその治療・支援について 講師 精神科医師 小原 圭司 (島根県立心と体の相談センター所長) 2 ギャンブル障害における認知行動療法「SAT-G」 について 講師 精神保健福祉士 佐藤 寛志 (島根県立心と体の相談センター) 3 グループワーク	対象:保健所、福 祉事務所、市町 村、医療機関等 でギャンブル依 存症者の回復支 援に従事する者 参加者 60 人 (37 機関)

## (2) 講演会・フォーラム

講演会等名 (期日・場所)	内 容(テーマ、演題) 講 師	対象及び 参加人員
自死遺族支援講演会 R1年8月30日(金) 13:30～15:30 (県立博物館・美術館 2階講堂)	講演:「語ることの意味 ～自死遺族から教えられたこと～」 講師:日本医療大学 保健医療部 看護学科 学科長・教授 吉野 淳一	対象:県民及び自死遺族の相談や支援に携わる者  参加者:68人
第19回 アディクション フォーラム  R1年2月11日(火) 13:00～16:00 (アイム・ユニバースて だこ大ホール)	第1部 回復に取り組む当事者とご家族の体験発表 5名:断酒会2名、AA、NA、GA各1名 第2部 講演 「やめさせようとなしない依存症治療・支援」 講師 埼玉県立精神医療センター 副病院長 成瀬 暢也  ※ダルクメンバーによるエイサー、交流タイム ※自助グループや回復施設等の紹介コーナー設置 ※依存症自助グループ・関係機関リストや依存症リーフレット等の配布	対象:県民、当事者・家族、自助グループ、回復施設、医療・行政・保健・福祉関係者等  参加者:540人

## (3) 令和元年度うつ病に対する医療等の支援体制の強化学業(委託事業)

地域の一般かかりつけ医と精神科医等の連携を円滑にするため、両者が一堂に会し、うつ病等の診断・治療に対する知識を深め、尚かつ、両者の連携のあり方について学ぶことにより、自殺対策の推進を図ることを目的に地区医師会へ委託して実施。

委託先:県内各地区医師会

## 各地区医師会活動内容

医師会名	期日・場所	内 容	参加数
北部地区 医師会	R1年7月24日(水) 北部地区医師会附 属病院	【自殺を予防する為の北部地域における一般医と精神科医との連携会】 参加者(委員):一般医、精神科医、保健所職員、医師会事務局 報告①昨年度の実績報告 ②北部圏域の自殺の現状と取り組みについて 議題①講演会等の企画について ②次年度委員の選定について	18名
	R1年11月6日(水) 名護市産業支援セ ンター	【講演会】 演題①「『この人、アルコール依存症かな?』と思ったら」 演題②「アルコール性肝疾患」 講師:①琉球病院 精神科医 手塚 幸雄 ②琉球大学医学部附属病院 第一内科 特命講師 前城 達次	24名

中部地区 医師会	R1年8月1日(木) 中部地区医師会館	【講演会】 演題:「働く人のメンタルヘルス」 講師:ぎのわんメンタルクリニック院長 道下 聡 ※講演会後、懇親会実施	15名
南部地区 医師会	R1年6月20日(木) 南部地区医師会会議室	【うつ病に対する医療等支援体制強化推進委員会】 参加者(委員):一般医、精神科医 内容:研修の企画、運営についての検討等	5名
	R1年11月21日 (木) 南部地区医師会小講堂	【講演会】 演題:「うつ病の診断と治療:抑うつ状態、不眠、希死念慮の評価と対応」 講師:平安病院 法人統括院長・臨床研修センター長 平安 良雄	15名
那覇市医師会	R1年7月20日(土) パシフィックホテル 沖縄	【市民フォーラム】青壮年期の自殺をどう食い止めるか 報告:「沖縄県および那覇市における自殺の現状について」 報告者:那覇市医師会副会長 玉井 修 講演(1)「You are not alone. あなたは独りじゃない」を伝えよう。 講師:スクールカウンセラー/沖縄国際大学臨床心理士/公認心理師 稲田 政久 講演(2):「法的援助の活用で生きづらさを軽減してほしい」 講師:弁護士・沖縄弁護士会/いのちみつめる委員会委員長 上原 智子 講演(3):「関わりはあなたの手から」 講師:精神科医/沖縄いのちの電話理事長 長田 清	100名
浦添市医師会		※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
宮古地区 医師会	R2年1月18日(土) 未来創造センター (公民館研修室)館	【研修内容】 演題:「働く人のうつ病・自殺予防について ～働き方改革の時代を迎えて～」 講師:山本クリニック院長 山本 和儀	15名
八重山地区 医師会	R1年10月25日 (金) 八重山地区医師会 会議室	【研修内容】 演題:「自殺予防における関連機関の連携 —救急における自殺企図者への対応と、各地域 における連携の実際—」 講師:独立行政法人 国立病院機構 琉球病院 院長 福治 康秀	17名

## 2 普及啓発

### (1) 芸術・文化講座開催等事業(委託事業)

精神障害者が日頃から取り組んでいる創作活動や音楽活動等を広く発表する機会を設けることにより、精神障害者の活動意欲や自信を高め、生活の質の向上及び社会参加の促進、ならびに県民の精神障害者に対する理解を深めることを目的に開催する。

沖縄県作業療法士会へ委託。委託先が、運営委員会と実行委員会を設け、企画運営を行う。当センターも運営委員(所長)と実行委員(担当2名)として参加している。

運営委員会2回、実行委員会を7回開催。

日時	場所	内容	参加人数
R1年11月6日(水) 13:30~15:00	サンエー経塚シ ティ1階コート (浦添市)	「ふれあいコンサート」 当事者によるバリアフリーコンサート ・内容:歌、演奏、手工芸品展示販売等 ・出演団体:6団体 ・展示販売団体:2団体	約200人
R2年2月4日(火) ~6日(木) ※3日間	沖縄県立博物館 ・美術館 県民ギャラリー 講堂 (那覇市)	「第15回こころの芸術・文化フェスティバル」 ・内容:作品展示、表彰式 ・作品内容:絵画・書道・手芸・工芸・陶芸・写真 文芸・貼り絵・共同作品等 ・応募数302点、展示数114点 ・受賞作品数:86点 (最優秀賞9点、優秀賞34点、奨励賞43点)	1,237人

## (2) 刊行物

行政資料名	定期・不定期	発行部数	規格	頁数
総合精神保健福祉センター所報(平成31年度実績)	定期	—	A4	
ひきこもり専門支援センター通信 3号	定期	2,000	A4	4
ひきこもりに悩んでいる方へ	不定期	1,000	A5	8
ひきこもりかな？	不定期	5,000	展開 A4	1
ひきこもり 正しい理解と支援のために	不定期	1,000	A4	4
知っていますか？依存症という病気のこと	不定期	2,000	B6 変型	8
危険です！！ネット依存症	不定期	1,000	A4	4
気づいてください 飲み過ぎ赤信号	不定期	1,500	A4	4
“考えましょう” お酒とあなたのイイ関係	不定期	1,000	A4	4
正しく知って予防しよう ギャンブル依存症になる前に	不定期	1,000	A4	4
アディクションフォーラム案内用ポスター・チラシ	不定期	1,000	A4	1
自死遺族支援講演会案内用ポスター・チラシ	不定期	ポスター 320 チラシ 1,500	A3/ポスター A4/チラシ	1
「参加してみませんか」自死遺族の「分かち合いの会」	不定期	4,000	A4	1

配布先: 県関係機関、全国精神保健福祉センター、福祉事務所、保健所、市町村、医療機関、

大学・教育機関、障害者福祉支援機関 等

### 3 技術援助・連絡会議

#### (1) 技術指導・援助状況

地域精神保健福祉活動を推進するために、保健所、市町村、その他の関係機関、団体等に対して研修会・講演会への講師派遣、各種委員会・ケース会議への参加及び各種会議を開催し、専門的な立場から技術指導及び技術援助を行っている。

	技術指導・援助（延件数）													
	老人保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健康づくり	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	災害	その他	合計
保健所			4			5			7			2	8	26
市町村	1		11			8	4		16				6	46
福祉事務所		1							3					4
医療施設		6	13			13			1		4	25	50	112
障害者支援施設		2					2		23					27
社会復帰施設		1							4					5
その他		14	27	1		26	5		5	18	44	10	51	201
実施件数	1	24	1	1		1	11		11	2	48	6	29	135

※実施件数は当センターが技術指導・援助を行った件数を実数で計上している。

(集会教育などは、指導対象施設それぞれに1ずつ計上しているが、実施件数は1回として計上している。)

#### (2) 連携会議

##### ア アディクション連携会議

アディクション問題に関わる行政・保健・医療・福祉・司法等の関係機関、当事者や家族の自助グループや回復施設等が一同に会し、共に学び、意見や情報を交換することで連携を深めることを目的に開催。

[第1回]

日時：R1年7月3日（水）14:00～16:30

会場：当センター2階 教育研修室

参加者：65人（55機関）

内容：①県内アディクション相談状況の報告（当センター）

②取組紹介：中部保健所及びギャマノン

③事例紹介（3事例）

④意見交換・情報交換：ネット依存やゲーム依存への対応、発達障害や未成年者への対応等

⑤報告、広報 ※依存症関係機関・自助グループリスト配布

[第2回]

日時：R1年11月6日(水) 13:30～16:30

会場：当センター2階 教育研修室

参加者：60人(52機関)

内容：①講義「ゲーム依存(障害)について」

講師 高宮城 修

(ネット健康問題啓発者全国連絡協議会公式インストラクター)

②事例検討(1事例)

③意見交換・情報交換：SBIRTSの現状と課題について、飲酒絡みのDV被害者の支援について

④報告、広報

イ 精神科救急医療責任者等連絡会 (P.35 参照)

ウ 精神科救急医療情報センター窓口相談員連絡会 (P.35 参照)

エ ひきこもり支援地域連絡協議会 (P.38 参照)

オ DPAT(災害派遣精神医療チーム)体制整備事業に係る会議

(ア) 運営委員会

災害派遣精神医療チーム体制整備事業において運営委員会を設置し、災害等の発生時、専門的なところのケアに関する対応が円滑に行われるようなチームの体制整備をすることにより、緊急支援体制の強化を図る。

開催：R1年7月31日(月)、R2年2月5日(水) 14:00～16:00

委員：12人(学識1人、医療7人、福祉1人、行政3人)

内容：第1回

報告1 沖縄県災害派遣精神医療チーム設置要綱の一部改正について

2 沖縄県災害派遣精神医療チーム(DPAT)登録機関について

3 第7次医療計画における災害拠点精神科病院について

4 沖縄県災害派遣精神医療チーム体制整備事業運営委員会設置要領の一部改正について

協議1 DPAT統括のDPAT事務局への報告について

2 事件・事故等集団災害時のDPAT活動について

第2回

報告1 沖縄県災害派遣精神医療チーム体制整備事業運営委員会設置要領の一部改正について

2 H31(R1)年度DPAT関連研修、訓練等参加状況

協議1 沖縄県災害派遣精神医療チーム設置要綱について

2 災害拠点精神科病院の選定要領案について

3 沖縄県DPAT活動マニュアル改訂について(県外派遣時)

4 美ら島レスキューから見えるDPAT体制整備への課題等について

(イ) 災害時におけるこころのケア活動マニュアル検討委員会

H26年3月に沖縄県の「災害時におけるこころのケア活動マニュアル」が作成されている。平成28年熊本地震での沖縄県DPATの派遣を通してわかった現マニュアルの課題や沖縄県災害医療マニュアルの改訂、国のDPAT活動要領の一部改正に伴い改訂が必要になったことから、運営委員会設置要綱第6に基づき、マニュアル検討委員会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は開催していない。

(ウ) DPAT 研修企画調整会議

本県では非常時に備え、沖縄県内発災を想定した実践的な訓練を定期的に行い、大規模災害発生時に活動可能な沖縄県DPATの育成を図るために毎年DPAT研修を実施している。この研修には、DPAT先遣隊を始め、専門的な訓練を受けた病院の協力が不可欠であり、それらの機関との協働によりDPAT研修の企画や内容の検討及び調整のため、同会議を開催した。

開催：年4回

(R1年8月5日、10月21日、11月18日、R2年3月11日各2時間)

参加者：9～11人（医師、看護師、精神保健福祉士、公認心理師、薬剤師、作業療法士、事務職等）

参加機関：琉球病院、精和病院、南部医療センター、平安病院、地域保健課、当センター

内容：研修内容、プログラム内容の検討、講師・ファシリテーターの役割分担、DPAT研修のあり方等について協議する。

カ 沖縄県発達障がい者支援センター・沖縄県立総合神保健福祉センター連絡会議

沖縄県の発達障害児（者）支援体制の推進を図るため、沖縄県発達障がい者支援センターがじゅま〜ると当センターの恒常的な連携が確保できることを目的に実施。

開催：年2回（R1年6月24日、R2年2月17日 各1時間半）

会場：発達障がい者支援センターがじゅま〜る、当センター

参加者：発達障がい者支援センターがじゅま〜る職員、当センター職員、ひきこもり専門支援センター相談員（計8～12名）

内容：各機関における実績概要紹介、情報・意見交換。

## (3) 講師等派遣

No.	日付	内 容	参加者数	主 催	対 象	講師等派遣職員
1	4月25日(木)	公衆衛生看護活動論	50	名桜大学	学生	伊禮嘉宣
2	5月15日(水)	沖縄司法精神医学懇話会	50	司法精神医学懇話会	会員	宮川治
3	5月23日(木)	相談員基礎研修	100	ているる	相談員	宮川治
4	6月1日(土)	内観懇話会	30	内観研修会	会員	宮川治
5	7月1日(月)	糸満市民生委員児童委員全体研修会	40	糸満市	民生委員児童委員等	園田陽子
6	7月23日(火)	メンタルヘルス	10	沖縄刑務所	入所者	宮川治
7	7月23日(火)	生活困窮者自立支援制度人材養成研修	40	沖縄県県労働者福祉基金協会	自立支援機関担当者等	園田陽子
8	8月2日(金)	中堅保健師前期研修会	16	県地域保健課	市町村・保健所保健師	新城明美
9	8月7日(水)	中城村民生・児童委員8月定例会	20	中城村	民生委員・児童委員	園田陽子
10	9月6日(金)	福祉事務所等生活保護就労支援員研修	15	県社会福祉協議会	支援員等	園田陽子
11	9月24日(火)	いのちの電話相談員勉強会	20	沖縄いのちの電話	会員	園田陽子
12	10月1日(火)	企業就労をサポートする支援者のための勉強会	16	障害者職業センター	障害者支援機関相談員	新城明美
13	12月25日(水)	中堅保健師後期研修会	15	県地域保健課	市町村・保健所保健師	新城明美
14	1月28日(火)	メンタルヘルス	10	沖縄刑務所	入所者	宮川治
15	1月31日(金)	県新任保健師研修会(後期)	28	県地域保健課	市町村・保健所保健師	伊禮嘉宣
16	2月9日(日)	多様化する依存症問題に対応する人材育成	30	NPO 法人回復はどこにでもある	医療・福祉関係支援者	宮川治
17	2月19日(水)	沖縄司法精神医学懇話会	50	司法精神医学懇話書き	会員	宮川治
18	2月22日(土)	沖縄県ソーシャルワーク学会・社会福祉公開セミナー	100	ソーシャルワーク協議会	関係機関支援者	園田陽子
19	2月27日(木)	ひきこもり支援者研修会	30	宮古保健所	市町村・保健所等	園田陽子 前田笑美子
20	2月14日(金)～ 2月16日(日)	心理教育インストラクター研修会	40	福岡県	医療機関	宮川治

## 4 組織育成支援

### (1) 自死遺族の「分かち合い」の会

自死遺族が安心して自らの痛みと向き合うことのできる「分かち合いの場」を提供し、参加する一人ひとりが抱えている悲しみを共有することによって癒やされ、自分のペースで回復していけることを目的に、平成19年度からファシリテーター養成を行い、平成20年度から自死遺族の「分かち合い」の会を開催している。平成31(令和元)年度は台風のため中止した9月を除き、年11回開催し、参加者は実4人(新規1人、前年度以前に参加があった方3人)、延7人であった。

対象者：大切な人(配偶者、親、子ども、兄弟姉妹)を自死(自殺)によって亡くされた方。原則として、20歳以上。

場所：当センター・ディルム

開催日時：毎月第3土曜日、14時～16時(13時半受付)

参加方法：当日参加(予約なし)

スタッフ：養成研修終了したボランティアスタッフとセンター職員で行っている。

内容：基本は小グループで分かち合い(語り合い)、状況に応じ個別面談を行う。

#### 自死遺族の「分かち合い」の会開催・参加状況

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加者数	1	0	1	0	1	／	0	0	0	1	1	2	7
スタッフ	4(2)	4(2)	2(1)	3(1)	4(1)	／	4(1)	2(1)	4(1)	4(1)	3(1)	3(1)	37(13)

※スタッフのうち、カッコ内は当センター職員(再掲)

### (2) 自助グループ等支援

精神保健福祉に関連する自助グループの集いやミーティング開催のために、当施設の一部の借用を認め、自助グループ運営を支援している。

#### 当施設を利用して活動した自助グループ

	名称	内容
1	那覇・南部ひきこもり親の会	不登校・ひきこもりの親の交流会
2	G♡B(ジーハートビー)	うつ病ダイケアで、認知行動療法(CBT)を学んだ者同士のミーティング
3	琉球G A I A 家族会	アルコールや薬物、ギャンブル等依存症の問題を抱えたご家族のための相談支援や勉強会、
4	NA イマココグループ	薬物によって問題を抱えた本人達のミーティング(クローズド)
5	沖縄ナラノン 沖縄地域コーラルグループ	薬物依存症のご家族のためのミーティング
6	豊見城断酒会	アルコール問題で悩む本人やご家族の酒害からの回復に向けた昼例会。(夜例会への出席が困難な方が参加できる機会を増やす)
7	沖縄県断酒会	アルコール問題で悩む本人やご家族のための酒害からの回復を目的とする自助組織の総会、理事会、研修会

## (V) 精神科救急医療体制

### 1 精神科救急情報センター相談窓口の受信状況

県は、精神科救急医療体制整備事業を行っている。その事業の中に精神科医療を必要とする者が、いつでも安心して相談や受診ができるよう、休日・夜間等の外来診療時間外において、精神科救急医療情報センターを設置。電話相談、精神科救急医療施設への受入調整等を行っている。総合精神保健福祉センターは、その事業実績をまとめており、令和元年度の結果は以下のとおりであった。

#### (1) 勤務帯別受信状況と開設回数

勤務帯 (回数)	相談者	受信件数	精神科医療施設紹介(※1)											救急告示病院紹介	電話相談		その他(※2)	
			当番病院紹介				当番日以外の精神科救急医療施設紹介				かかりつけ病院紹介				相談機関案内	指導助言		
			合計	入院	外来	受診なし	合計	入院	外来	受診なし	合計	入院	外来					受診なし
休日 (9時～17時) (127回)	本人	372	37	4	31	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	323	8
	家族	172	50	18	27	5	5	4	1	0	0	0	0	10	2	101	4	
	関係者	151	44	22	16	6	10	6	4	0	0	0	0	2	3	41	51	
	その他	35	6	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	7	
	合計	730	137	45	79	13	16	10	6	0	0	0	0	12	8	487	70	
前夜 (17時～1時) (365回)	本人	1255	27	7	18	2	0	0	0	0	0	0	0	16	12	1161	38	
	家族	350	91	38	44	9	3	3	0	0	0	0	25	8	212	11		
	関係者	287	110	62	43	5	6	6	0	0	1	0	1	3	1	85	79	
	その他	75	5	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	44	26	
	合計	1967	233	108	107	18	9	9	0	0	1	0	0	47	21	1502	154	
合計 (492)回	本人	1626	64	11	49	4	1	0	1	0	0	0	0	16	15	1484	46	
	家族	522	141	56	71	14	8	7	1	0	0	0	0	35	10	313	15	
	関係者	436	154	84	59	11	16	12	4	0	1	0	1	5	4	126	130	
	その他	113	11	2	7	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	66	33	
	総計	2697	370	153	186	31	25	19	6	0	1	0	0	59	29	1989	224	

※1 精神科救急医療施設とは輪番病院である18施設のこと。

※2 その他とは病院間の連絡、精神科救急医療情報センターのシステムの説明、精神科以外の相談・問合せ等。

※3 平成30年6月より後夜(1:00～9:00)休止。

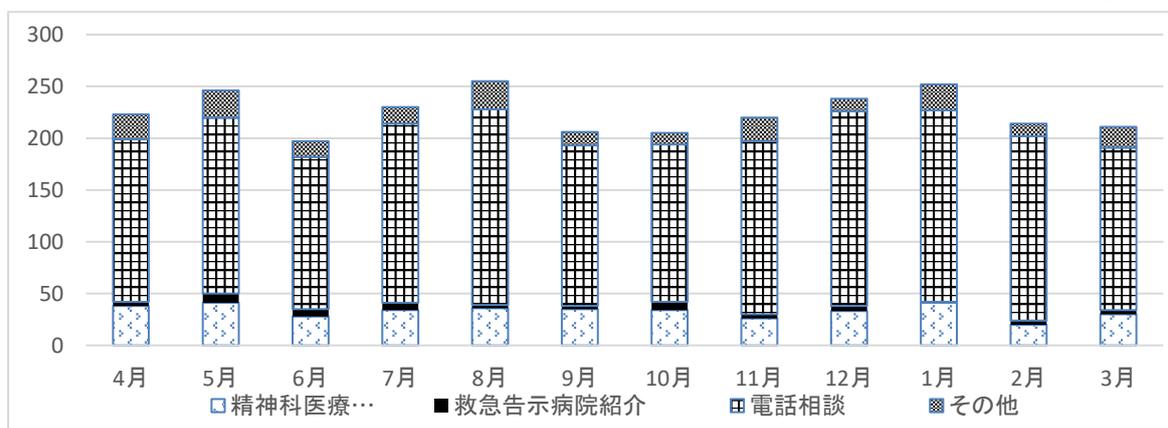
## (2) 月別受信状況及び対応

月別受信状況と対応は、次の表及びグラフのとおりで月平均受信件数は224.8 件であり、対応は電話相談が多い。

月 日(回数)	総 受 信 件 数	精神科医療施設紹介(※1)												救 急 告 示 病 院 紹 介	電話相談		そ の 他 (※2)
		当番病院紹介				当番日以外の精神科 救急医療施設紹介				かかりつけ病院紹介					相 談 機 関 案 内	指 導 助 言	
		合 計	入 院	外 来	受 診 な し	合 計	入 院	外 来	受 診 な し	合 計	入 院	外 来	受 診 な し				
H31年 4 月 30日(40回)	223	34	18	14	2	4	3	1	0	0	0	0	0	4	4	153	24
R1年 5 月 31日(43回)	246	38	14	18	6	3	1	2	0	0	0	0	0	9	2	168	26
6 月 30日(40回)	197	26	11	11	4	2	2	0	0	0	0	0	0	7	4	143	15
7 月 31日(40回)	230	34	11	22	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	8	165	16
8 月 31日(41回)	255	32	14	18	0	3	2	1	0	1	0	0	1	3	3	186	27
9 月 30日(41回)	206	33	9	21	3	2	2	0	0	0	0	0	0	3	2	153	13
10 月 31日(41回)	205	30	14	15	1	4	3	1	0	0	0	0	0	8	1	151	11
11 月 30日(40回)	220	22	11	8	3	4	3	1	0	0	0	0	0	4	2	165	23
12 月 31日(42回)	238	33	14	17	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	188	12
R2年 1 月 31日(43回)	252	40	18	19	3	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	184	25
2 月 28日(40回)	214	19	6	10	3	1	1	0	0	0	0	0	0	4	0	178	12
3 月 31日(41回)	211	29	13	13	3	1	1	0	0	0	0	0	0	4	2	155	20
合計 365日(492回)	2,697	370	153	186	31	25	19	6	0	1	0	0	1	59	29	1,989	224

※1 精神科救急医療施設とは輪番病院である18施設のこと。

※2 その他とは病院間の連絡、システム説明、精神科以外の相談・問い合わせ等のこと。



## 2 精神科救急医療連絡会

### (1) 精神科救急医療責任者等連絡会

精神科救急医療情報センターの体制整備及び円滑な運営を図ることを目的として開催する。

月 日	内 容	参加数・構成員
第1回 R1年 6/12 (水) 14:00～ 16:00	1 H30年度精神科救急医療情報システム実績報告 2 H30年度精神科救急医療体制連絡調整委員会の報告 3 協議・確認事項 (1) 飲酒・多量服薬の自殺企図者の対応について (2) かかりつけ病院の対応について 4 確認事項 (1) 精神重症の判断について 5 報告・その他	<参加人数> 第1回：53名 第2回：54名 <構成機関> 1 沖縄県医師会 2 精神科病院協会 3 外来精神科医会 4 精神保健福祉協会 5 防災危機管理課 6 警察本部 7 救急告示病院 8 精神保健福祉士協会 9 日本精神科看護協会 10 琉球大学医学部附属病院 11 精和病院 12 琉球病院 13 南部医療センター 14 保健所 15 県地域保健課 16 精神科救急窓口相談員 17 県立総合精神保健福祉センター 18 その他所長が必要と認めた者(各MC協議会、久米島病院等)
第2回 R1年 12/11 (水) 14:00～ 16:00	1 協議事例 (1) 救急受診時の飲酒状態の情報共有を図って欲しい (2) かかりつけ及び精神科救急の受診のあり方について (3) 希死念慮と倦怠感のある患者の初期対応について 2 意見交換 (1) 精神疾患を有する救急患者のディスポジションを円滑に実施するために (2) 精神疾患にて通院中の男性による救急車頻回利用について (3) 久米島の精神医療の現状報告 3 その他	11 精和病院 12 琉球病院 13 南部医療センター 14 保健所 15 県地域保健課 16 精神科救急窓口相談員 17 県立総合精神保健福祉センター 18 その他所長が必要と認めた者(各MC協議会、久米島病院等)

### (2) 精神科救急医療情報センター窓口相談員連絡会

精神科救急医療情報センターの円滑な運営のため、相談員の資質向上を図ることを目的として開催する。

日 時	内 容	対象(参加人数)
第1回 R1年 8/29(水) 14:00～16:00	1 事例検討(3事例) 2 その他検討したいこと、情報提供など 3 意見交換・その他	相談員(4) 精神保健福祉協会(2) 地域保健課(2) 当センター(4)
第2回 R2年 2/13(水) 14:00～16:00	1 事例検討(4事例) 2 その他検討したいこと、情報提供など 3 意見交換・その他	相談員(6) 精神保健福祉協会(1) 当センター(4)

## (VI) ひきこもり専門支援センター事業

### 1 ひきこもり専門支援センター概要

ひきこもり※状態にある本人及び家族等を支援するとともに、関係機関と連携することにより、ひきこもり状態にある本人の自立を促進し、本人及び家族の福祉の増進を図るため、H28年4月に開所し、同年10月より相談業務を開始した。

※ひきこもりの定義…様々な要因の結果として社会参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的には6カ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしてもよい)を指す現象概念である。なお、ひきこもりは原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神病性の現象とするが、実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性は少なくないことに留意すべきである。(2010年 ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン)

### 2 業務内容

#### (1) ひきこもりに関する相談支援

##### ア 相談支援体制

ひきこもり専門支援センターでは、ひきこもり相談支援専門員(保健師、看護師等の資格を有する者)を3名配置し、ひきこもりに関する相談支援を行っている。相談方法は、主に電話相談、来所相談、訪問など適宜必要な支援を実施している。

電話相談は、月曜日～金曜日(祝日、年末年始、慰霊の日を除く)の10時～12時、13時～16時受付。来所相談は予約制となっている。

##### イ 相談件数(延べ数)

相談延べ件数は、電話相談 1,902 件、来所相談 282 件、メール・文書の送付(手紙を送る等)41 件、訪問支援 47 件、延べ総数は 2,287 件であった。前年度の相談延べ件数(2,018 件)より増加。家族への対応(1,461 件)が、本人への対応(373 件)の3倍以上であった。訪問支援は、家庭訪問や同行支援(本人と関係機関の見学、家族と地域ひきこもり親の会への参加等)であった。

#### R1 年度相談対応件数

支援方法	相談者内訳				延総数
	本人	家族	関係機関	その他	
電話	279	1,205	304	114	1,902
来所	49	214	7	12	282
訪問	29	21	4	3	57
会議	0	2	3	0	5
メール・手紙等	16	19	3	3	41
延総数	373	1,461	321	132	2,287

## ウ ひきこもり新規相談対象者の概要

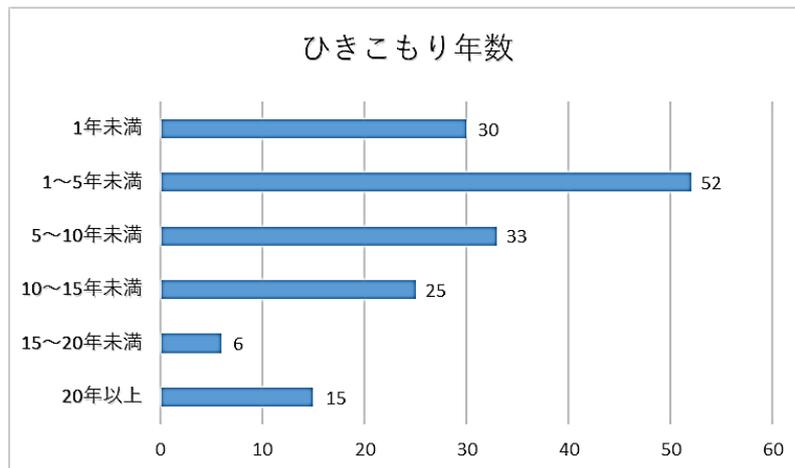
新規相談の実人員は 208 人。そのうち男性は 160 人(76.9%)、女性は 46 人(22.1%)で対象者は男性が多かった。年代別では 10 代 27 人(12.9%)、20 代 49 人(23.5%)、30 代 56 人(26.9%)、40 代 44 人(19.7%)と、対象者は 20～30 代の割合が多くなっていた。

## 相談実人員

	10 歳未満	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	不明	総数
男性	3	17	33	51	33	16	4	3	160
女性	0	10	16	5	11	2	1	1	46
不明	0	0	0	0	0	0	0	2	2
総数	3	27	49	56	44	18	5	6	208

## エ 新規相談対象者のひきこもり年数

新規相談対象者 208 人中、ひきこもり状態である年数が把握できたケースは 161 人であった。それ以外の 47 人は、ひきこもり年数不明あるいは、ひきこもり以外(施設に入れたい・発達障害・病気について等)の相談である。1～5 年未満が 52 人(25.0%)と最も多く、次いで 5～10 年未満が 33 人(15.9%)であった。10 年以上にわたる長期ひきこもり者は 46 人で、全体の 22.1%に上っている。



## オ 処遇

前年度からの継続支援ケースを合わせた、今年度の支援実数は 315 人。

そのうち、令和元年度中に支援終了したケースは 185 人。支援終了の内訳は、助言終了 115 人、関係機関にて支援 16 人、就労等のため支援終了 8 人、中断 46 人であった。次年度へ支援を継続するケースは 130 人で、内訳は面接や家族教室で支援するケースは 115 人、当センターデイケアと連携支援 3 人、関係機関と連携支援 12 人となった。

新規のひきこもり相談対象者 208 名のうち、本人と面談することができたのは 17 人だった。

処遇	内訳	支援実数	計
終結	助言終了	115	185
	関係機関にて支援	16	
	就労等	8	
	中断	46	
継続支援	面接・家族教室参加	115	130
	デイケアと連携	3	
	関係機関と連携	12	

## (2) 受理会議

目的:継続支援の可否や支援方針の決定

日時:毎週金曜日(8:45~10:00)、その他適宜

出席者:相談指導班長(保健師)、ひきこもり支援担当職員(保健師、心理士)、  
ひきこもり相談支援専門員(保健師、看護師)

## (3) ひきこもり支援機関事例検討会

事例を通し、関係機関職員の相談技術の向上を図るとともに、適切な支援方法について検討し、関係機関との連携を強化する。

開催日	参加機関	参加人数	事例数
5月22日	子ども若者未来相談プラザ sorae 保健所	2機関4人	1
6月17日	アソシア社会大学	1機関3人	1
6月20日	市町村担当課、サポートセンター	2機関2人	1
6月25日	子ども若者未来相談プラザ sorae 保健所	2機関4人	1
9月3日	保健所、市町村担当課 地域包括支援センター パーソナルサポートセンター	4機関9人	1
9月9日	アソシア社会大学	1機関3人	1
1月20日	アソシア社会大学 ひきこもり支援センター	1機関3人	2
3月12日	医療機関、保健所	2機関4人	1
延べ数		15機関32人	9事例

## (4) ひきこもり支援地域連絡協議会

ひきこもりの状態にある本人及び家族を孤立させることなく、住み慣れた地域の既存の社会資源(医療、保健、福祉、教育、就労等の関係機関)が連携し、適切な支援ができるよう、連絡協議会を設置する。

地区	日程	会場	内容	参加機関	参加人数
宮古	11月1日	宮古合同庁舎	ひきこもりの支援について厚生労働省資料紹介 「ひきこもりの理解と対応」/当センター心理士 「本人のニーズをどうくみ取るか」/一般社団法人アトリエみらい 代表理事 東 邦治	市町村担当課、就労支援機関、相談支援事業所、民生・児童委員、社会福祉協議会、NPO法人、保健所、福祉事務所	19機関 35人
八重山	12月23日	八重山合同庁舎	ひきこもり支援について厚労省内閣府資料紹介 「ひきこもり支援者としての心構え」 琉球大学 准教授 草野 智洋	市町村担当課、青少年センター、就労支援機関、相談支援・福祉サービス事業所、社会福祉協議会、保健所、福祉事務所	10機関 19人
北部	2月14日	北部合同庁舎	「ひきこもりの家族支援～CRAFTの活用～」 宮崎大学 准教授 境 泉洋 事例検討	市町村担当課、相談支援機関、障害者支援機関、社会福祉協議会、パーソナルサポートセンター、家族会、保健所、福祉事務所	22機関 63人

## (5) ひきこもり支援者研修会 (再掲)

目的：ひきこもりケースのアセスメントをテーマとし、支援者が包括的な視点を持ってアセスメントすることで、ご家族やご本人にとって必要な支援を提供できるようになることを目的とする。

対象者：ひきこもりの支援に従事する関係機関

開催日	内容	参加者
R1年8月9日 10:00~16:30	講演：「ひきこもりケースのアセスメントと支援」 講師：大正大学教授 精神科医 近藤 直司	92 機関 126 人

## (6) ひきこもり家族教室(再掲)

目的：家族がひきこもりの知識と当事者への対応を学び、家族同士の情報交換や交流を図ることで、家族が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対象者：ひきこもり専門支援センターで支援している家族

開催日	内容	参加家族
第1回 5月15日	① 講話「ひきこもりとは」 講師：心理士 ② ワーク「望ましい行動を増やす」	14 家族 19 人
第2回 7月17日	① 講話「ひきこもりの長期化とこころの病気」 講師：所長 ② ワーク「ポジティブなコミュニケーションスキル」	26 家族 34 人
第3回 11月21日	講話「ひきこもり経験者の体験談」	29 家族 40 人
第4回 1月16日	講話「家族の体験談」	33 家族 41 人
	延べ数	102 家族 134 人

## (7) ひきこもり家族向け講演会(再掲)

目的：家族がひきこもりの知識を得ることや当事者への対応方法を学ぶことを通して、家族自身が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対象者：ひきこもり専門支援センターを利用している家族、県内の家族会会員、当事者（当センターを利用している方を中心に募集）

開催日	テーマ	参加家族
第1回 9月21日	「ひきこもりの子を持つ親」である私が豊かな人生を生きるために 講師：琉球大学 准教授 草野 智洋氏	45人
第2回 2月15日	本人と共に生きていくために家族ができることとは？ 講師：宮崎大学 准教授 境 泉洋氏	32人
	延べ数	77人

## (8) 普及啓発

- ア ひきこもり専門支援センター通信作成（関係機関 346 か所に送付）  
 イ 県ホームページ、新聞広告欄、県広報紙に掲載  
 ウ マスコミ等による情報発信

## (9) 研修・交流会参加

月日	内 容	場 所	主 催
7月12日	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会 第1回研究協議会	横浜市青少年センター	ひきこもり地域支援 センター全国連絡協 議会
10月12日 ～13日	KHJ全国大会	北海道立道民活動セン ター「かでる2・7」	KHJ全国ひきこも り家族会連合会
11月25日 ～26日	令和元年度 子供・若者育成支援のための地域 連携推進事業 中央研修大会	国立オリンピック 記念青少年総合セ ンター	内閣府
12月9日 ～11日	子ども・若者総合相談センター機能高度化のた めの会合	国立オリンピック 記念青少年総合セ ンター	内閣府
2月3日	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会 令和元年度第2回研究協議会	神戸国際会館セミ ナーハウス9階大会 場	ひきこもり地域支援 センター全国連絡協 議会

## (10) 講師等派遣（再掲）

日付	内容	参加者数	主催	対象	派遣職員
7月1日	ひきこもりの理解と支援	約50人	糸満市民生委員児 童委員連絡協議会	民生委員・児童委 員	園田陽子
7月23日	「生活困窮」と「ひきこも り」の各専門職からみた支 援のありかたについて	65人	沖縄県就職・生活 支援パーソナルサ ポートセンター	生活困窮に係る 行政・自立支援機 関担当者	園田陽子
8月7日	ひきこもりの理解と支援	約30人	中城村民生委員児 童委員協議会	民生委員・児童委 員	園田陽子
9月6日	ひきこもりの理解と支援 ～中高年のひきこもり～	20人	沖縄県社会福祉協 議会	福祉事務所等の 就労支援員	園田陽子
9月24日	ひきこもりの現状と対応	約20人	沖縄いのちの電話 事務局	いのちの電話相 談員	園田陽子
2月22日	ひきこもりとソーシャル ワーク～その実像から『ひ きこもり』にとらわれない 支援を考える～	200人	沖縄県ソーシャル ワーカー協議会	協議会員・社会福 祉従事者・一般県 民等	園田陽子
2月27日	ひきこもりの理解と対応 ～本人・家族支援に必要な 視点～	40人	宮古保健所	ひきこもりに関 わる支援者	園田陽子

## (VII) 調査研究・職員研修

## 1 職員研修

## (1) 学会・研究会・研修会参加

令和元年度研修派遣報告〔費用弁償による派遣も含む〕

月 日	研 修 名	場 所	主 催
7月6日	ブリーフ・インターベンション&HAPPYプログラム研修	佐賀県 肥前精神医療センター	肥前精神医療センター
7月12日	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会令和元年度総会および第1回研究協議会	神奈川県 横浜市青少年相談センター	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会
7月29日～31日	依存症相談対応指導者研修(薬物)	AP品川	依存症対策全国センター
8月22日～23日	2019年度第1回ギャンブル等依存症研修	TKPガーデンシティ横浜	依存症対策全国センター
9月5日～6日	アルコール依存症研修	明治学院大学(白金キャンパス)	依存症対策全国センター
9月6日～8日	第43回日本自殺予防学会総会	南山大学G棟	日本自殺予防学会
9月29日	第9回サポーター研修会	東京・四谷主婦会館プラザエフ	自死遺族ケア団体全国ネット
10月4日～6日	2019年度アルコール・薬物依存症関連学会合同学術総会	札幌コンベンションセンター	日本アルコール・アディクション医学会学術総会 日本アルコール関連問題学会
10月12日～13日	KHJ全国ひきこもり全国大会	北海道立道民活動センター「かでの2・7」	KHJ全国ひきこもり家族会連合会
10月21日～22日	第55回全国精神保健福祉センター研究協議会	高知県 城西館	全国精神保健福祉センター研究協議会
11月18日～20日	第11回認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修	東京都 国立精神神経医療センター	国立精神神経医療センター
11月25日～26日	令和元年度 子供・若者育成支援のための地域連携推進事業 中央研修大会	国立オリンピック記念青少年総合センター	内閣府
11月26日～29日	2019年度アルコール・薬物関連問題研修	佐賀県 肥前精神医療センター研修センター	日本アルコール・アディクション医学会
12月9日～11日	子ども・若者総合相談センター機能高度化のための会合	国立オリンピック記念青少年総合センター	内閣府

月 日	研 修 名	場 所	主 催
12月15日	令和元年度 心の健康・文化フォーラム	国立京都国際会館メインホール	日本臨床心理士資格認定協会
12月21日～22日	精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの活用に向けた作業療法研修	静岡県 ふしみや会議室	日本作業療法士会教育部
12月23日	認定NPO法人スクオーラ・今人侍学園東京校見学	認定NPO法人スクオーラ・今人侍学園東京校	認定NPO法人スクオーラ・今人侍学園東京校
1月19日	令和元年度自殺未遂者ケア研修	大手町ファーストスクエアカンファレンス2階	自殺総合対策推進センター
1月30日～31日	九州ブロック精神保健福祉センター所長会及び研究協議会	熊本県くまもと県民交流館パレア9階会議室	九州ブロック精神保健福祉センター
2月3日	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会令和元年度第2回研究協議会	神戸国際会館セミナーハウス9階	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会
2月14日	令和元年度都道府県等依存症専門医療機関/相談員等全国会議	東京商工会議所	依存症対策全国センター
2月29日	第13回自死遺族ケア団体全国スタッフ研修会	主婦会館プラザエフ	自死遺族ケア団体全国ネット
2月21日	全国精神医療審査会連絡協議会	アルカディア市ヶ谷	全国精神医療審査会連絡協議会
3月7日	精神保健福祉手帳・自立支援医療の適正な運用を考えるためのミニシンポジウム『てんかん』編の開催について	京都市地域リハビリテーション推進センター	全国精神保健福祉センター長会手帳・自立支援医療ワーキンググループ

## (2) 視察の研修受入れ

月日	内容	場所	参加者	人数	講演者
7月3日	沖縄県ひきこもり専門支援センターの取組について	当センター	与論町議会議員・議会事務局長	6	担当

# 資 料

- 1 沖縄県精神科救急医療体制概要
- 2 沖縄県精神科救急医療体制図
- 3 沖縄県精神科救急医療情報センター電話相談フローチャート
- 4 救急隊による精神科救急患者搬送のフローチャート

## 1 精神科救急医療体制概要

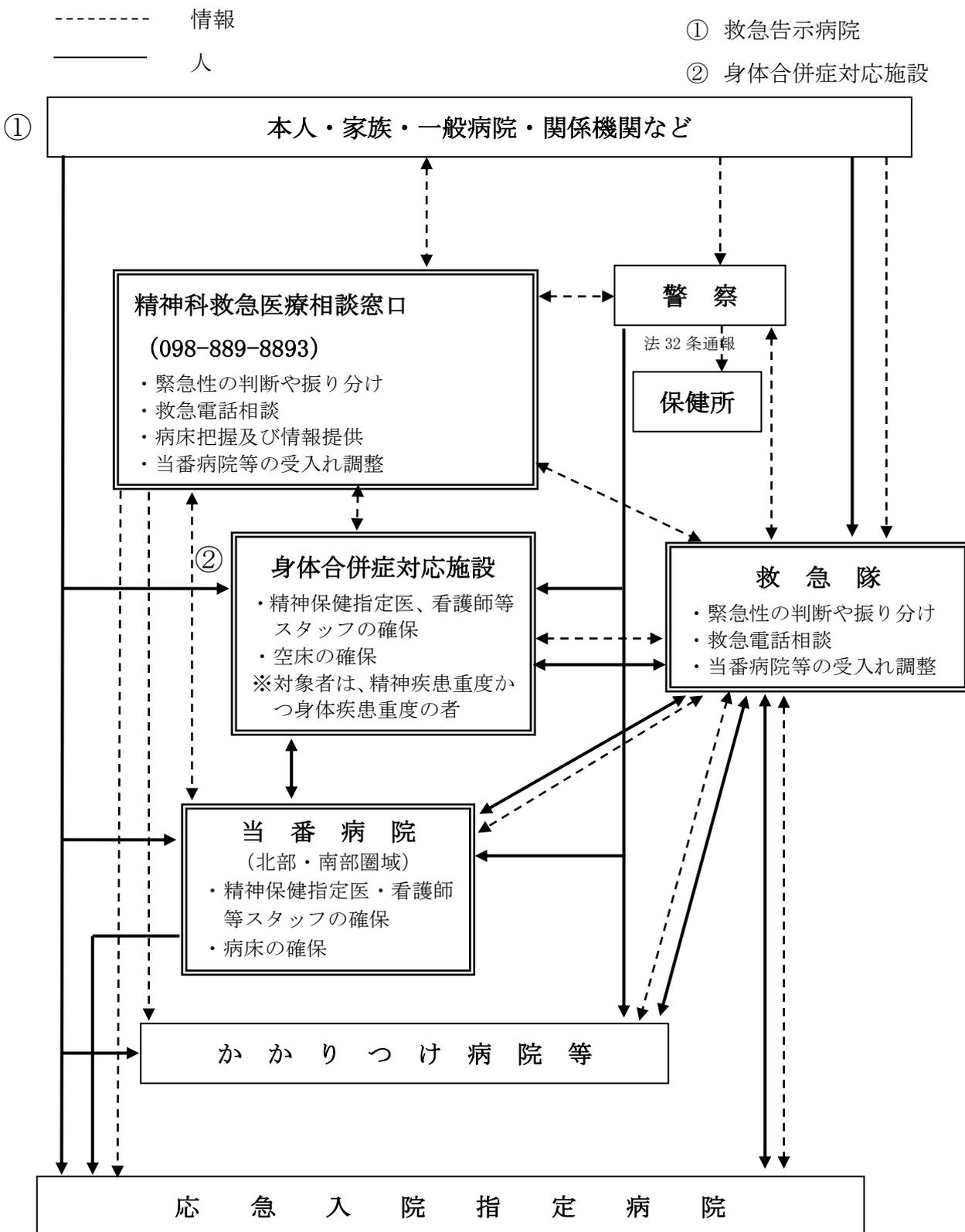
### (1) 目的

精神科医療を必要とする者が、いつでも安心して相談や受診ができるよう、休日・夜間等の外来診療時間外において、精神障害者等の適切な医療及び保護を確保し、精神保健福祉の充実に資することを目的とする。

### (2) 内容

項目	内容
対象者	1 自らの意思により、相談・診療を求める者 2 精神症状により、緊急に精神科受診を必要とする者 3 自らの意思によらない医療・保護を必要とする者
非対象者	アルコール酩酊者、身体合併症優先者（身体合併症対応病院除く）等
実施時間	休日：9時から翌日9時まで（24時間） 平日夜間：17時から翌日9時まで
精神科救急医療 相談窓口	電話による相談受付 休日：9時から翌日9時まで（24時間） 平日夜間：17時から翌日9時まで 連絡先 098-889-8893
当番病院	北圏域、南圏域ごとに1当番病院（精神科救急医療施設） 宮古、八重山圏域については現行県立病院の診療体制で対応
当番病院の 診療体制等	精神保健指定医（オンコール可）1名、看護師1名、1床の空床確保等診療応需体制を整備する。
かかりつけ病院	かかりつけ病院がある救急患者への対応は、かかりつけ病院で対応することを基本とする。
応急入院指定 病院（21カ所）	北圏域：独立行政法人国立病院機構琉球病院 他6病院 南圏域：県立精和病院 他11病院 宮古圏域：県立宮古病院 八重山圏域：県立八重山病院
合併症受入 協力病院	当番病院等では対応困難な身体合併症患者を受け入れる病院は、救急告示病院、県立病院、連携している病院等とする。
精神科救急 医療体制連絡 調整委員会	精神科救急医療体制の適切な運営を図るため医師会、精神病院協会、警察、消防、精神科医療の学識経験者、行政等の代表者からなる委員会を設置する。
搬送	原則として 1 診察や入院を依頼した者が搬送を行う。 2 転院患者については、転院依頼した者が搬送を行う。

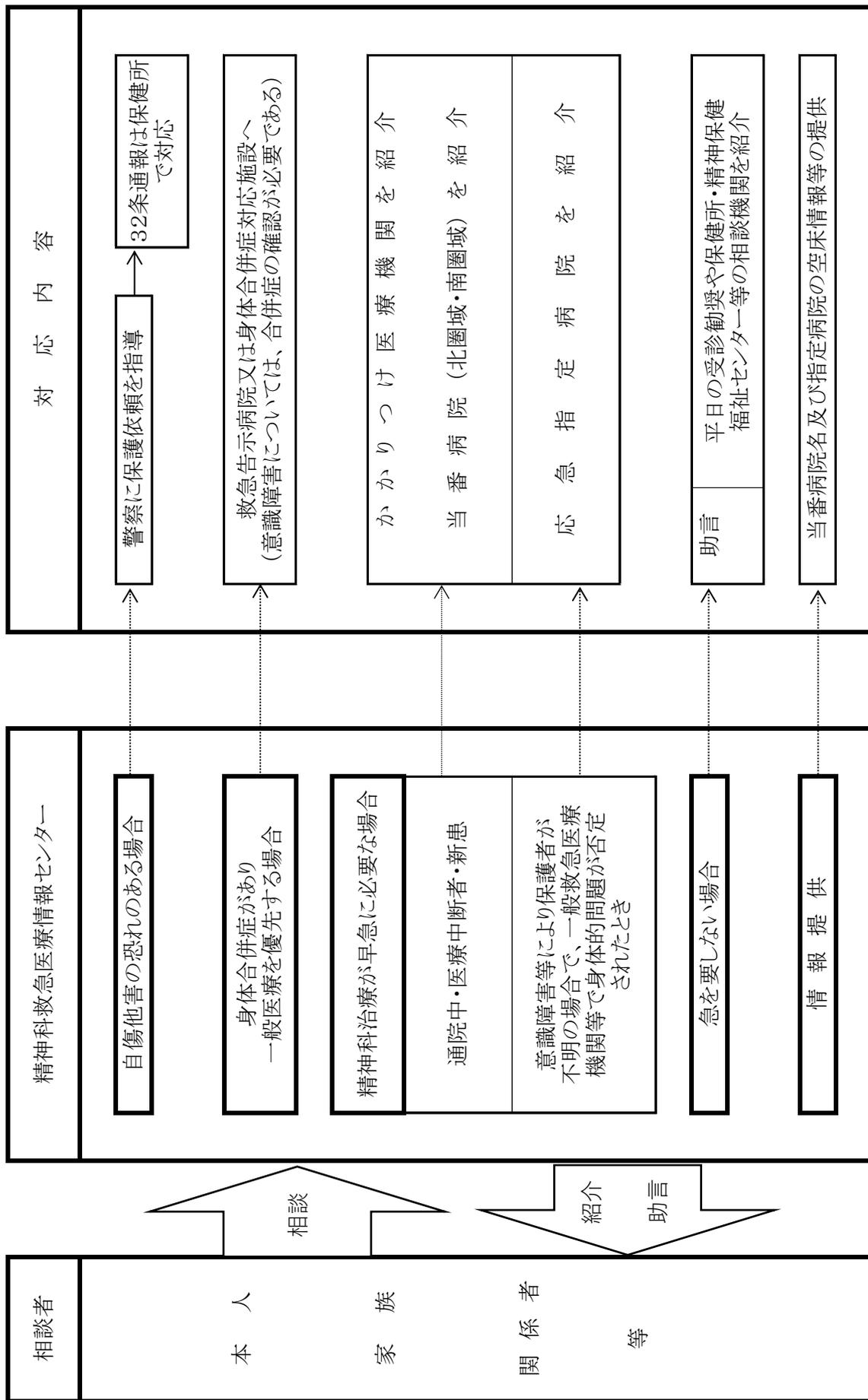
## 2 沖縄県精神科救急医療体制図



※ かかりつけ病院のある救急患者については、相談窓口を介さず、直接、かかりつけ病院を受診することを基本とする。

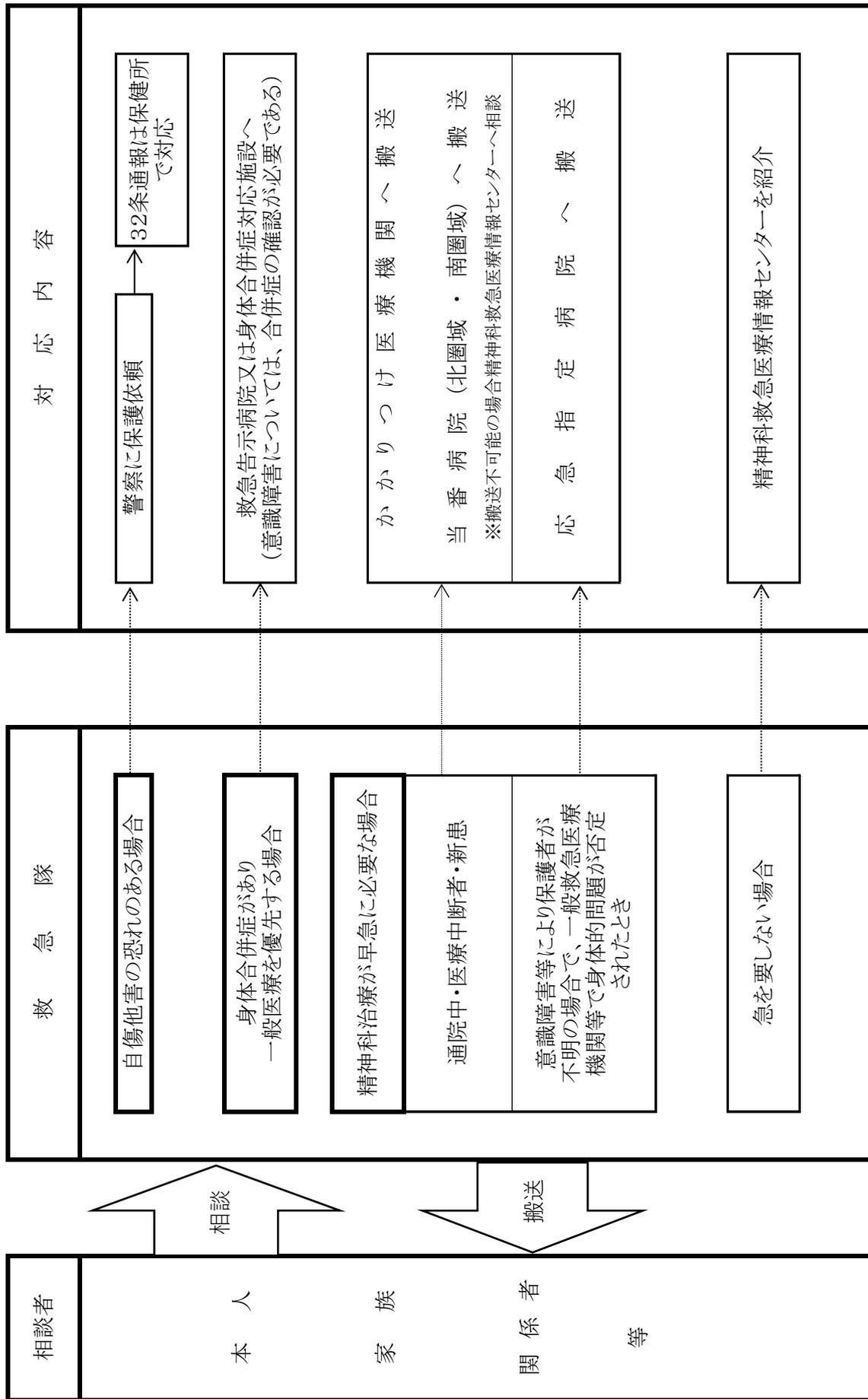
※ かかりつけ病院が受け入れられない搬送については、相談窓口を介さず、直接、当番病院へ連絡調整の上、搬送することを基本とする。

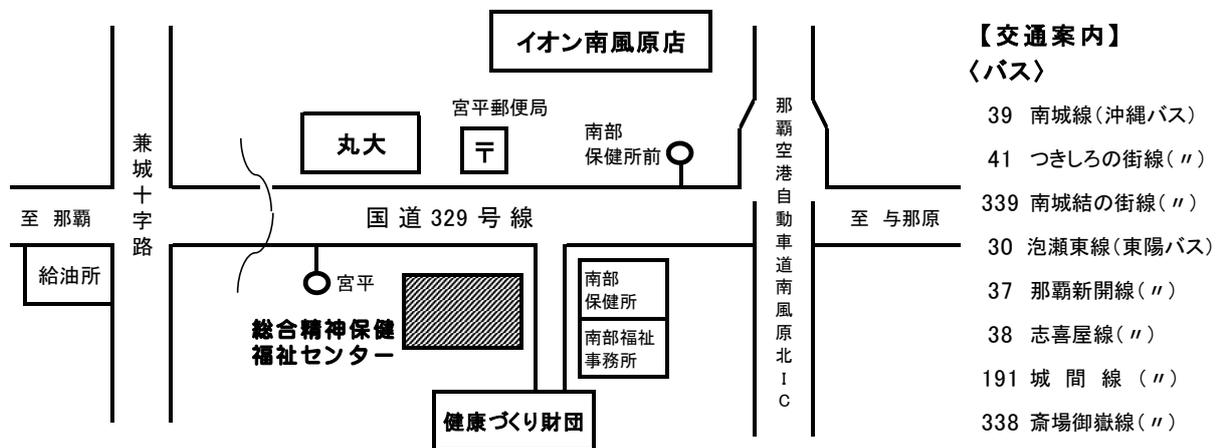
### 3 沖縄県精神科救急医療情報センター—電話相談窓口の流れ〈フローチャート〉



4 救急隊による精神科救急患者搬送の流れ(フローチャート)

平成17年6月1日よりスタート





**【交通案内】  
〈バス〉**

- 39 南城線(沖縄バス)
- 41 つきしろの街線(〃)
- 339 南城結の街線(〃)
- 30 泡瀬東線(東陽バス)
- 37 那覇新開線(〃)
- 38 志喜屋線(〃)
- 191 城間線(〃)
- 338 斎場御嶽線(〃)

---

発行：沖縄県立総合精神保健福祉センター

〒901-1104

沖縄県南風原町字宮平212-3

TEL (098)888-1443

FAX (098)888-1710

---